

NO CRASSROOTS, NO ADVENTURE!

— IDENTITY・ZONE そして FUSION —

その10 (R06.05.09)

R06教育構想を読み解く 【学びの地図】

⑤専門的な知識・技能や経験を基にした教科担当制の充実

今年度は、次に示す学年で教科担当制を実施しています。

1年 音楽・図工・外国語活動	3年 書写・理科・音楽・図工・外国語活動
2年 音楽・外国語活動	4年 書写・理科・音楽・図工・外国語活動
5年 国語・社会・算数・理科・音楽・図工・家庭・外国語	
6年 国語・書写・社会・算数・理科・音楽・図工・家庭・外国語	

【教科担当制のメリット】

- ①担当する教科を減らすことにより、教員の教材研究時間が増えることです。このことにより、授業の質が高まり、児童が主体的・対話的になり深い学びにつながります。
- ②複数の教員が児童に関わることにより、児童の理解や信頼関係の構築につながります。このことにより、児童の気持ちの安定につながります。
- ③小学校から中学校への円滑な接続が進みます。中学校の授業イメージを理解することで、「中1ギャップ」の解消が期待できます。
- ④1組と2組で2回の授業を実施することにより、教員自身の授業技術が高まります。このことは、児童の学力向上にもつながります。

【教科担当制のデメリット】

- ①芝根小では教員数の減少もあり、時間表を組むことに制限があります。バランスを取りながら、実施する必要もあります。
- ②複数の教科を連携しながら指導することは難しくなります。いわゆるカリキュラム・マネジメントの視点が薄れます。算数で学んだことを、社会や理科の授業に連携することが弱くなりがちです。学校内での工夫の必要もあります。